

名前は怖い

1. エサキモンキツノカメムシ

カメムシといえば誰もが敬遠する虫です。やはり、名前通りの匂いを出します。しかし、分かっているにもかかわらず覗いてしまう虫です。

成虫は体長が1cmより少し大きいくらいですが、模様が目立ちます。ハート型をしている背の黄色の紋が目立ちます。脅さなければ匂いを出さないのです。名前のツノは胸部の左



右に突き出た部分で、モンキは黄色の紋、江崎は学名をつけた昆虫学者「江崎悌三九州大学教授」に由来するものです。ハートの黄色は濃いものから白っぽいものまで個体差があります。

カメムシは幼虫と成虫で大きく色彩が変わるものが多いのですが、エサキモンキツノカメムシはあまり変わらないほうです。幼虫のときにはハートはありません。蛹の時期はなく、秋に最後の脱皮をして翅が完成し成虫になると、隙間等でそのまま冬越しします。幼虫は木の実の汁を吸って成長します。カメムシはセミと同じ仲間ですから、汁を吸う口をしています。幼虫の若い期間は群で生活し、卵から2齢幼虫まで雌が保護する昆虫として有名です。

2. ゴンズイ

明るい場所を好むため、遊歩道脇で出会う木です。特に秋は実が赤くなり、はじけて黒い種子が見えるので目に留まりやすくなります。落葉前の葉の緑とのコントラストがすばらしい木なのですが、名前が問題です。



魚にもゴンズイがいます。群を作って泳ぎ、毒棘を持ち、役に立たないもの一つとして挙げられる魚です。樹木のゴンズイも、材は柔らかくて折れやすいため、役に立たないものとして同じ名前を付けられた、という説もあります。水揚げが悪く、花材にも使われません。



花は房状にたくさん咲くため、果実もまとまって付きます。果皮はだんだん厚くなり、表面の小さな凹凸が目立つようになると色づきはじめ、やがて下側が割れて果皮に種子が付着した状態となります。山椒の種と色、形とほぼ同じです。